

①計画全般について

- 個々の施策の設定が難しいようであれば、例えば「1の柱」、「2の柱」などに沿って設定したほうが、計画との整合性がとれる。
- 中間年の目標設定であるので、事業ごとに紐づいた数値目標ではなく、第4次スポーツ推進計画の策定につながるような数値目標を設定してはどうか。

②スポーツツーリズムについて

- インバウンドにおいて、「するスポーツ」だけではなく「みるスポーツ」にも焦点を当てると、スポーツを通じた地域活性化につながる。
- 府外からのプロスポーツ観戦者数なども今後、ツーリズムの指標としては良いかと思う。

③障がい者スポーツについて

- スポーツ施設について、延べの利用者だけではなく、新規の利用者などについて目標を設定し、そのための取組みを行うことはどうか。
- まずは障がい者スポーツを観戦してもらうことによって障がいへの理解が深まると考える。

④スポーツによる地域活性化について

- 地域活性化について、健康増進と、人と人のネットワークづくりということが、大事なポイントになるのではないかと。
- 実際にスポーツをしている人と最前線で関わっている、基礎自治体の担当者と連携して様々な事業を進めていくことが重要である。

⑤スポーツの価値と力について

- スポーツ庁の調査では「well-being（幸福感・充実感）」の質問項目が既に挿入されている。
- スポーツ未来開拓会議でもwell-beingは取り上げられているので、新しい指標ではあるが広まってきている。

⑥スポーツと健康づくりについて

- コロナ禍を経て、配信される動画を見ながら、自宅で好きな時間にちょっと体を動かすというようなことは、多くの人にとって特別なことではなくなっている。

計画部会(令和6年3月22日)等での主な意見

⑦コロナ等スポーツを取り巻く状況について

- コロナが2類から5類に移行され、スポーツの実施率は伸びるかと思っていたが、あまり伸びなかった。
- コロナ禍においては、まずはスポーツを観戦するところに立ち戻ってもらおうと、「みるスポーツ」の取組みを実施してきた。

⑧スポーツと産業振興について

- 家でするスポーツやジョギングを始められる方々が増え、スポーツウェアやシューズの売上が上がっている。
- 運動メニューや運動量を計測するアプリや、エアロバイクを用いてメタバース空間で様々な場所から大会に参加できるコンテンツが生まれるなど、運動する機会を保とうという動きがある。

⑨学校部活動の地域移行について

- 専門のスキルを持った方の指導が必要だという声は切実である。
- 顧問とうまくコミュニケーションを取って取り組むことが大事だと思う。
- 運動部の「試合に勝つ」という部分に馴染めないために、参加を躊躇する子どもも少なくなく、そのことがスポーツを身近なものとして捉える機会を減らしている可能性があると感じている。
- スポーツを地域に開き、立場や年代を超えた交流を介して、誰もが体を動かす楽しさを享受できる機会を設けることが重要と考える。
- 誰でも参加できて、なおかつ、自分自身も人間的に変わる部活動は継続させるべき。

府における計画見直しの視点について

- 様々な事業を行った結果として、計画がどの程度達成できたかを評価する数値目標を設けることは非常に重要なことであり、第4次スポーツ推進計画の策定につながるような数値目標を選定すべきではないか。
- スポーツは身体的な健康のみならず、精神的、または社会的な健康に良い影響をもたらすとされており、スポーツの持つ力や価値を活用し、府民一人ひとりの生活や心がより豊かになる視点として、well-beingの向上を新たな指標としてはどうか。
- 学校部活動の地域移行については、国の動向を踏まえて取組が進められているが、部活動の価値等を大切にしながら、地域の実情に応じた地域移行が実現できるよう計画に反映すべきではないか。